

小美玉市の歴史を知ろう 48

疫病退散 — 庚申信仰 —

「今年の干支は？」と聞かれたら、多くの人が「子年」と答えるでしょう。そもそも、干支とは「十干」と「十二支」を組み合わせた60周期の数え方で、暦、方位、時間など、現在の生活にも根強く残っています。また、「壬申の乱」、「戊辰戦争」など歴史上の政変や事件の名称にもなっています。阪神甲子園球場は「甲子」の年（大正13年）に完成したことから命名されました。ちなみに今年は庚子の年です。

庚申待の広がり

「庚申信仰」は、中国の道教が説く「三尸」の話をもとに、平安時代の貴族階級で始まりました。その後、仏教や民間信仰が複雑に交じりあい、江戸時代以降は庶民にも広がりました。60日に一度、1年間で6回ほどある庚申の日に神仏を祀って徹夜をする行事となり、庚申待と言いました。

悪事を監視している三尸の虫は、人の頭、腹、足にいて言われています。庚申の日の夜、人々が寝てい

る間に天に昇って閻魔大王に悪事を報告し、その罪状によっては、寿命を縮めたり、死後に地獄に墮としたりしたとされています。そこで、三尸の虫が天に昇れないように、村々の男性が集まって神仏を祀りし、酒宴を開いて、夜を明かしました。

祀られる神仏

仏教では、青面金剛をお祀りしました。伝戸（伝染病を流行らせる虫）から守ってくれる仏様であったため、三尸と伝戸を結びつけたと考えられています。また、神道では猿田彦神がお祀りされました。庚申の「申」が猿田彦神の「猿」と結びついたと言われています。



写真：青面金剛像の掛け軸

庚申塔

庚申待を3年、18回続けた記念

に建立されるのが、庚申塔です。市内にも数多く残っています。写真は、宝永2年（1705年）に建立された上玉里にある庚申塔です。正面には、邪鬼を踏みつけた青面金剛像、17名の庚申講員、日光東照宮でおなじみの「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿を彫り込んでいます。これは、猿が使いとされている「山王信仰」と習合した結果とされています。



写真：庚申塔（宝永2年）

庚申待の現在

現在は廃れてしまいましたが、親睦会と称して庚申待を行っている集落もあります。

来年、最初の庚申の日は1月12日になります。夜更しの「庚申待」してみますか？

【語句解説】

十干（音読み）
甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸
十二支（音読み）
子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥

問い合わせ 生涯学習課（生涯学習センターコスモス内） ☎ 0299-26-9111



広報おみたまに
広告を出しませんか？

詳しくは
こちら

企画調整課 シテップロモーション係
☎ 0299-48-1111 内線1234



日本郵便

ぼすくま



納場地区で簡易郵便局の業務を
受託していただける方を募集しています。

お問い合わせ先

日本郵便株式会社 関東支社 経営管理部 簡易局担当
TEL 048-600-2203

<受付時間 10:00~17:00> 月~金（祝日、12/29~翌年1/3を除く）